

# 日本キリスト者医科連盟（J CMA）静岡部会

## デンマーク牧場福祉会 共催による 講演会のお知らせ

今年も桜が咲き、新緑を迎える中で、新「こどもの家」が牛舎の南側の高台に完成しました。

5月23（土）、日本キリスト者医科連盟（J CMA）静岡部会と社会福祉法人デンマーク牧場福祉会の共催で、かつて「まきばの家」「こどもの家」のチャプレンであった内藤新吾さんをお迎えして講演会を開きます。

内藤さんは、2008年3月8日に「忍び寄る危険 ー大人は子どもを守るかー」と題して、原子力の危険性について警鐘をならされ、その内容を『医学と福音』に掲載しました。その3年後、内藤さんが、ちょうど千葉に移転される折りの2011年3月11日、東日本大震災が起こり、福島原発の事故が起こり、我々は襟をただしました。あれから早4年が経ちました。内藤さんに下記のように講演の要旨を記して頂きました。

どうぞ皆さんご参集下さい。共に学び合いあいましょう。

日時： 2015年5月23日（土） 午後1時半より4時頃まで

場所： デンマーク牧場 まきばの家

内容： 講演「宗教者として原子力を問う」

内藤 新吾 氏

日本福音ルーテル稔台教会 牧師

### 〔内藤さんのプロフィール〕

1961年 兵庫県生まれ 1991年 日本ルーテル神学校卒業、初任地は名古屋の教会  
2004～2011年 日本福音ルーテル掛川・菊川教会牧師時代に「浜岡原発を考える静岡ネットワーク」役員も経験。2011年4月～上記千葉県の教会に転任、日本キリスト教協議会「平和・核問題委員会」長、「原子力行政を問い直す宗教者の会」事務局の一人。著書に『原発とキリスト教』（共著、新教出版社）、『キリスト者として原発をどう考えるか』（いのちのことば社）、『自然の問題と聖典』（共著、キリスト新聞社）、他。

### 〔講演の内容〕

日本が原発を導入したのはアメリカの主導によるが、アメリカがなぜ原発を売ることに関心をもち、自国の核兵器製造を継続するための経済的安定のためというのが一番の理由であった。他にも、世界に核アレルギーを無くさせることにより、核兵器を使用しやすくしたいという狙いもあった。さらには、既に核開発した列強国以外への核不拡散の監視をするという、一石二鳥ならぬ三鳥を目指したのが、アイゼンハワーの国連での平和利用演説の隠された真実である。そして、核産業保護のため、放射線の基準は甘く設定されてきた。現在も、あれほどの大事故を起こした日本が原子力にこだわるのは、アメリカはもう原発を売ることができなくなっており、日米ともに技術と人材を絶やさぬよう、二人三脚で日本が売ること、また日本も儲ける番がきたのでこれを放棄したくないという事情が第一にある。また国内の政財界が、原発で利権を集中させてきたので、その形が崩れることを恐れたものもある。そしてもう一つの密かな理由が、実は原発を導入した最初から、いつかは自分たちも核武装をしたいという願いもあることである。今日本は、アメリカを裏切らない限り、すべてがアメリカにより許可される時代となっている。私たちキリスト者は、いのちと平和を守っていくために、見張り人として立てられている。子どもたちのいのちを守り、地球のお世話を務めるが、神様から託されている。この期待に応える者でありたい。

袋井駅からの送迎希望の方は、**12時50分に袋井駅の南口を出たところ**に集合下さい。〔今回、変更します！〕  
事前に、こひつじ診療所のスタッフか、武井までご連絡下さい。

J CMA静岡部会長 こひつじ診療所 院長 武井 陽一

まきばの家 こどもの家 施設長 松田 正幸

ディアコニア 施設長 金高 美江子

問い合わせ先 こひつじ診療所 電話：0538-23-0660

まきばの家 電話：0538-23-0770